

学校名 (児童数)	滋賀県東近江市立五個荘小学校 (670人)
--------------	--------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県東近江市五個荘竜田町 567

電話番号：0748-48-3102

**【研究の目的， 研究内容】**

**(1) 研究主題**

確かな学力を身につけ、自ら学び自ら考える力を育てる算数科の授業  
～筋道を立てて考え、表現する力を育てるための授業の創造～

**(2) 研究主題設定の理由**

昨年度は算数科を窓口「根拠を明らかにしながら、論理的に説明する力」の充実を図るため自力解決の思考過程がわかるよう、板書と連動したノート指導を行ってきた。そして、自力解決からペア・グループ学習、集団討議により考えを深め交流する中で、よりよい考えにつなげ、根拠を明らかにして友だちに説明する力を育むよう努めてきた。また、基礎基本の定着を図るため、スキルタイム（朝自習の時間）の活用や掲示物などの工夫により、一定の成果を得た。

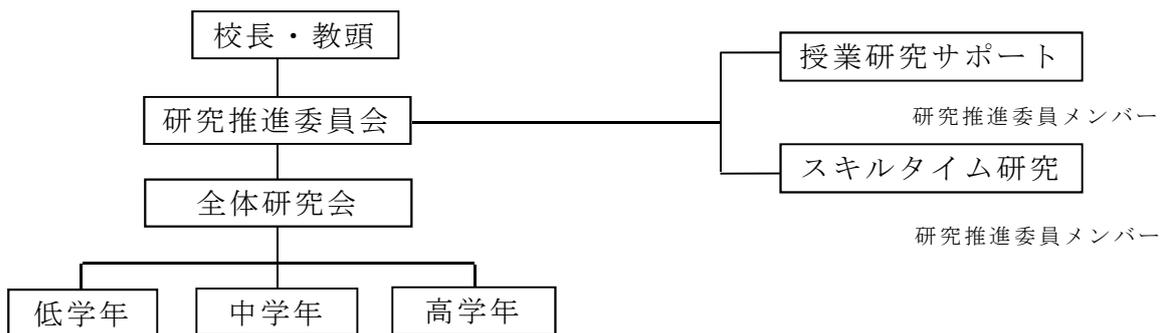
しかし、平成27年度の全国学力学習状況調査の結果から、

- ① 読み書き計算の基礎学力の徹底
- ② 与えられた文章や資料を活用しながら論理的に説明する力の養成
- ③ 家庭学習の充実など子どもの学習時間の確保

などの課題があると言え、授業改善やスキルアップ、家庭と連携した取組がさらに必要であることが明らかとなってきた。

そこで今年度は、昨年度までの実践を土台としながら、根拠を明らかにして説明する力を育てる授業づくりの充実と、その基盤を固め確かな力を身に付けるためスキルタイムなどの活用と家庭学習を推進し、基礎基本の徹底を図ることで研究主題に迫りたいと考えた。

**(3) 研究体制**



**(4) 1年間の主な取組の経過**

・ 4月 3日 (金)	研究推進委員会・職員会議・校内研究会 (研究主題・研究内容・研究方法の共通理解)
・ 4月 9日 (木)	
・ 5月 25日 (月)	
・ 5月 7日 (木), 8日 (金)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校採点
・ 6月 30日 (火)	学年部授業研究会 第3学年算数科「あまりのあるわり算」
・ 7月 1日 (水)	学年部授業研究会 第6学年算数科 「角柱と円柱の体積の求め方」

- ・ 7月 8日 (水) 学年部授業研究会 第2学年算数科「水のかさをはかろう」
- ・ 7月 29日 (水) 夏の校内研究会① 県教委指導主事  
講義「高め合う学び合いの授業作り」  
・ 指導案作成
- ・ 8月 25日 (火) 夏の校内研究会② 指導案作成, 教材研究
- ・ 9月 11日 (金) 学年部授業研究会 第5学年算数科「偶数と奇数、倍数と約数」
- ・ 10月 20日 (火) 学年部授業研究会 第1学年算数科「たしざん」
- ・ 11月 10日 (火) 県学力向上アプローチ事業研究指定校自主発表 公開授業・研究会  
第1学年算数科 「ひきざん」  
第2学年算数科 「かけ算(1)」 新しい計算を考えよう  
第3学年算数科 「小数」 はしたの大きさを考えよう  
第4学年算数科 「面積のはかり方と表し方」 広さを調べよう  
第5学年算数科 「図形の角」 図形の角を調べよう  
第6学年算数科 「比例と反比例」 比例をくわしく調べよう

(5) 具体的な研究内容・方法, 研究を進める上での工夫点等

① 「五小スタイル」による授業づくりの充実

- ・ 1時間の授業の流れを明確にした学習展開を、「目標・課題把握→自力解決→ペア・グループ学習→全体討議→まとめ→適応問題→振り返り」として、どの児童も見通しを持ち学習に参加できるようにした。(算数科→他教科へ)
- ・ ノート指導では、見開き1ページで書けるよう板書と連動させて、マス目にも配慮した指導を行った。
- ・ ペア・グループ学習の場を設定し、自分の考えを伝える機会を漏れなくとることで、自分の考えを他者に説明し、互いの考えを交流させるようにした。
- ・ 1時間のゴール、単元のゴールを意識した授業実践を行うようにし、本時の演習課題や単元の評価問題に取り組んだ。



② スキルアップ (基礎基本の定着を図る)

- ・ 朝のスキルタイムを活用し、全校で統一したプリント教材を作成し、「算数スキル」と「ことばのスキル」に取り組んだ。
- ・ 児童が6年間継続して使用できる朝チャレ用ファイルを用意し、自分に合ったチャレンジができるよう、進級式課題を作成した。

五個荘小学校 朝チャレタイム (8:20~8:35)

月	火	水	木	金
学年集会	算数	ことば	算数	算数

- ★遅いと思ったら、机の上に、ファイル・ノート・筆記用具を用意します。
- ★自分の学習のめあてを決めましょう。
- 枚数にチャレンジ ……たくさん問題に取り組もう!
- 時間にチャレンジ ……少しでも早く問題をできるようにしよう!
- ノミズにチャレンジ……正確にできるようにしよう!
- ★ノートは毎日めあてを書きます。
- ★8限20分のチャレタイムで始め、30分までの10分間、集中して取り組みます。
- ★8限30分になったら、答え合わせをします。
- ★がんばりのカードに、自分の記録をします。次のめあてを決めておくこともできます。



「朝チャレ算数」がんばりカード! (NO )

年 組 名 前 ( )

とんとん チャレンジ・自分と向き合おう!!

月/日	番号	点数	合格 シール	タイム	時間 シール
6/5	10	10	●	8分 20秒	
6/9	11	10	●	7分 30秒	
6/11	19	10	●	7分 10秒	
6/23	20	10	●	6分 4秒	
6/25	25	10	●	4分 3秒	
6/26	26	10	●	5分 2秒	
6/27	27	10	●	2分 1秒	
6/28	28	10	●	1分 16秒	

### ③家庭との連携

- ・「家庭学習のすすめ」を作成し、規則正しい生活習慣が学習基盤であり「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめ、「テレビのスイッチを切る」「一緒に読書をする」など具体的にできることを示し、学習環境づくりの協力を呼びかけた。(親への発信・子への発信)
- ・家庭学習の習慣化(一定課題と自主課題)「自学のすすめ」を学年の発達段階に応じて作成し、内容等を示すとともに学ぶ習慣づくりをすすめた。

**家庭学習のすすめ**

【その2】

学力向上は、家庭学習の習慣化から

【その1】

【その3】

【その4】

【その5】

【その6】

【その7】

【その8】

【その9】

【その10】

【その11】

【その12】

【その13】

【その14】

【その15】

【その16】

【その17】

【その18】

【その19】

【その20】

【その21】

【その22】

【その23】

【その24】

【その25】

【その26】

【その27】

【その28】

【その29】

【その30】

【その31】

【その32】

【その33】

【その34】

【その35】

【その36】

【その37】

【その38】

【その39】

【その40】

【その41】

【その42】

【その43】

【その44】

【その45】

【その46】

【その47】

【その48】

【その49】

【その50】

【その51】

【その52】

【その53】

【その54】

【その55】

【その56】

【その57】

【その58】

【その59】

【その60】

【その61】

【その62】

【その63】

【その64】

【その65】

【その66】

【その67】

【その68】

【その69】

【その70】

【その71】

【その72】

【その73】

【その74】

【その75】

【その76】

【その77】

【その78】

【その79】

【その80】

【その81】

【その82】

【その83】

【その84】

【その85】

【その86】

【その87】

【その88】

【その89】

【その90】

【その91】

【その92】

【その93】

【その94】

【その95】

【その96】

【その97】

【その98】

【その99】

【その100】

### 【研究成果と課題】

#### (1) 研究成果

- ・1時間の授業の流れを明確にし、学習展開を統一したことで、どの児童も見通しを持ち、安心して学習に参加することができるようになってきた。今年度は、算数科だけでなく他の教科へも広げることで、五小の学びのスタイルとして定着しつつある。また、ノート指導では板書と連動させ基本形を示すことで、自力解決の過程や自分の考えの変容がわかるよう、図や絵・ポイントを付け加えるなどした「自分流のノート作り」ができるようになってきている。さらに、どの子にもペア・グループ学習や全体交流の場で話す機会があることで、思考の深まりや広がり、補い・変容などが見られるようになってきている。
- ・朝のスキルタイム「朝チャレタイム」を全校的に実施し、自分に合ったチャレンジを選んで取り組むことで、児童一人ひとりがめあてを持って意欲的にスキルアップに挑む姿が見られ、基礎的な力の伸びにつながっている。
- ・今年度の全国学力・学習状況調査の結果に目を向けると、特に算数科において、計算・思考領域における調査結果に顕著な伸びをみることができ、子どもたちの姿の中に3年間の本研究の成果を結び付けることができた。

#### (2) 課題等

- ・ノートに自分の考えを書いたり、友だちに考えを伝えたりする力では個人差が大きい。自分の考えが書けても交流の段階になると考えや思いを相手に伝えることが難しいという児童もいる中で、すべての児童が積極的に書いたり伝えたりするためにはさらなる手立てが必要である。
- ・児童の疑問やつまずきから、「より学びたい・知りたい」という意欲を引き出し、子どもたちの手で本時の学習課題を作成し、アクティブに学べる学習展開の創造を探りたい。子どもの確かな理解につながる教師の働きかけについて、さらなる研究を進める必要がある。